

日本歯科大学新潟歯学部

所在地 新潟市浜浦町

建物用途 病院・大学

竣工 1972年

改修 1994年

所有者 学校法人日本歯科大学

設計者 鹿島建設(株)設計エンジニアリング
総事業本部北陸支店

施工者 鹿島建設(株)北陸支店



〈審査評〉 この建築は、岡田新一設計事務所の設計、鹿島建設他4社による施工で1972年に竣工し、建築業協会賞（BCS 賞）を受賞した施設である。築後20年を経て施設各部に生じつつある不具合の解消と、教育・医療を取り巻く社会環境の変化への対応を図るため、キャンパス全域にわたる「設備更新を主体とした施設のリニューアル」が実施された。リニューアルの基本姿勢として、岡田新一の作品に愛着を持ちつつ、新しい機能をプラスとして付加する考え方が貫かれている。

工事は、診療・教育を継続しながら行う「ノンダウン・リニューアル」の道を選び1日も休むことなく施工された。診療・教育への影響を最少におさえるための施工計画、新工法（CALM JET 工法）の開発、施主・設計・施工の三者間で行われた綿密なスケジュール管理によって無事完了した。竣工後2年近く経過し、改修の目的を満足していることが確認されている。

改修のねらいは、本来この施設が備えている機能の回復と、さらに将来に向かっての新たな機能の付加にあり、外装等の年輪を感じさせる雰囲気は出来る限り利用された。計画するにあたっては「今後の歯学教育のありかた」をはじめ、「地域医療への貢献」や「高度先進医療への対応」など、大学が今後社会に果たすべき責務をテーマに広く検討が行われ、「患者サービスの向上」「教育環境の向上」「省エネルギー・省力化」の3項目を基本コンセプトとする改修プログラムが作成されている。所有者と改修設計者の綿密なコミュニケーションによる機能追求により初めて達成された計画といえる。

主たる改修として、患者サービスの点から優先度の高い「待合ロビー」や病院エントランスについてはスペースの拡張、蓄熱式床暖房を含む全面的な改修を行っている。比較的問題の少ない部分については内装の更新と設備改修を実施している。設備関係の更新については、最大の課題であったエネルギーの転換をはじめ、カリキュラムに追従したエネルギー使用量の低減、コンピュータを利用した一括集中管理による省力化が図られた。また、病院棟屋上部分を設備スペースとして有効活用することで、400 m²の有効スペースを生み出し病院倉庫の大幅拡張を可能としている。

所有者がオリジナルの建築・設計者に愛着を持ち、将来のあるべき姿を具現化するための運営面及び建築・設備面の機能付加を冷静に判断し、廃棄物発生量の削減等地球環境への配慮を図り、バランス良く施設全体のリニューアルを実施したもので、ベストリフォーム・ビルディングの受賞にふさわしい建築であることが認められた。